

成果の概要

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 小杉 泰

「イスラーム地域研究」(Islamic Area Studies: IAS)は、京都大学、早稲田大学、東京大学、上智大学、財団法人東洋文庫がそれぞれに拠点を作り、五拠点でネットワークを形成して共同研究を行うプロジェクトである。現在、この研究ネットワークは人間文化研究機構(NIHU)プログラム「イスラーム地域研究」(2006年度~2010年度)および文部科学省「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」(2008年度~2012年度)の二事業を中心に活動を行っている。2008年にはネットワーク全体が「共同利用・共同研究拠点」に認定され、全国の関連研究者が集う全国規模のイスラーム研究の拠点となった。世界的に見てもイスラーム研究に関するこうした組織は類例がなく、この分野における最先端の研究組織として研究・教育活動を推進している。京都大学研究教育振興財団より助成を受けた3rd IAS International Conference 2010 “New Horizons in Islamic Area Studies: Continuity, Contestations and the Future”は「イスラーム地域研究」の活動の一環として国立京都国際会館において2010年12月17日から19日にかけて三日間の日程で開催された。240名に及ぶ内外の研究者(参加登録者数、うち外国人研究者47名)が27の地域から集まった。

「イスラーム地域研究」ではクアラルンプールにおける1st IAS International Conference 2008(12月22日~24日)、カイロにおける2nd IAS International Conference 2009(12月12日、13日)と二度の国際会議を開催しており、3rd IAS International Conference 2010はこれら2つの国際会議の延長線上に位置づけられ、それらをさらに発展させるものである。

長い歴史的伝統を有するイスラームとその文明は、現在きわめて困難な状況に置かれ、伝統と革新の間で揺れ動きながら未来を模索している。その歴史を踏まえたうえで現代イスラームへの理解を深めていくことは、我が国および世界にとって重要な課題である。本国際会議名 New Horizons in Islamic Area Studies: Continuity, Contestations and the Futureはこの問題意識を反映させたものであり、我々が蓄積してきた「イスラーム地域研究」の成果とこれまで構築してきた国際的ネットワークを通じて、多様な側面からイスラーム世界の過去・現在・未来を展望することが本国際会議の大きな目的であった。

オープニング・セレモニーでは、金田章裕人間文化研究機構機構長、赤松明彦京都大学理事、立本成文総合地球環境研究学研究所所長、佐藤次高イスラーム地域研究研究代表のあいさつを賜った。「イスラーム地域研究」国際会議がとくに京都で開催されることの意義が述べられ、「イスラーム地域研究」関連機関だけでなく、京都に位置する諸機関が協力して国際会議参加者を歓迎する旨が伝えられた。

本国際会議は大きくプレナリー・セッション、パラレル・セッション、ポスター・セッションからなり、プレナリー・セッション数1、パラレル・セッション数13、それにクロージング・セッションを加えると計15のセッションが設置され、総勢57名が発表した。そのうち外国人研究者による発表は32本で、「イスラーム地域研究」の成果を海外に向けて発信するという目的と国際会議の性格とのバランスからみて、日本人研究者と外国人研究者のこの割合はきわめて妥当であろう。なお、コンピーナー、司会者、ディスカッサントを含めたセッション参加者はのべ92名で、うち外国

人研究者はのべ 37 名である。ポスター・セッションでは参加希望者のなかから選定された 23 演題のポスターが展示された。このうち外国人研究者が関わったのは 6 演題である。ポスター・セッション参加は国外に関して自費参加だったにも関わらず、海外研究者が 4 分の 1 を占めたことは、イスラーム地域研究の未来を担う若手研究者の育成を企図して 1st IAS International Conference 2008 以来、国際会議に組み込んでいるポスター・セッションが国外でも次第に認知されつつあることを示している。

プレナリー・セッションのテーマ「伝統、革新、そして未来」は 3rd IAS International Conference 2010 の会議名を踏まえたもので、セッションでは人類学・宗教学・政治学・文献学といったさまざまなフィールドから問題提起がなされ、本国際会議の基調を定めるものとなった。セッション参加者（発表者と司会）の出身国も、米国、ノルウェー、南アフリカ、マレーシア、日本、エジプトと多種多様で、世界規模でイスラーム地域研究そのものを考察するにふさわしい陣容であった。

次に 13 のパラレル・セッションでは、既存のディシプリンに新たな手法も交えながら、イスラーム世界の諸地域を多角的に解明していくイスラーム地域研究の成果が公表された。以下、パラレル・セッションのテーマを列挙しておく。

- 「ユーラシア地域大国内に居住するムスリムの祖国観をめぐって」
- 「19 世紀、20 世紀の近代化にともなうシャリーア法廷の変化と連続性」
- 「メディアとイスラーム主義的言説 新聞・雑誌・書籍、インターネット、衛星放送」
- 「東南アジア・キターブの比較研究に向けて」
- 「イスラームと多文化主義」
- 「ムスリム社会における NGO 活動」
- 「中央アジアのオーラル・ヒストリー」
- 「イスラーム主義運動の二つの潮流をめぐって」
- 「アラビア半島における資源活用と環境保全」
- 「パレスチナ問題の社会経済的諸相」
- 「イスラームにおける知の構造と変容 天文学、自然学、哲学」
- 「アラブ諸国における冷戦終結後の世界的政治変革の影響」
- 「スーフイズムと聖者崇拜をめぐる諸現象にたいする新たなアプローチ」

最終日 12 月 19 日に行われたクロージング・セッションでは、1st IAS International Conference 2008 で共同開催したマレーシアのマラヤ大学の Hamidin Abd Hamid 氏、2nd IAS International Conference 2009 で共同開催したカイロ大学の Isam Hamza 氏、「イスラーム地域研究」に深く関わっていただいている研究者代表として Güljanat Kurmangaliyeva Ercilasun 氏と Thierry Zarccone 氏等が、これまでの「イスラーム地域研究」の活動および本国際会議を振り返りながら、未来の「イスラーム地域研究」の展望、さらには「イスラーム地域」に対する提言をおこなった。

世界的に見ても新しい研究分野であるイスラーム地域研究に関して、日本における「イスラーム地域研究」で蓄積されてきた研究成果を公表し、研究分野としてのイスラーム地域研究の可能性を世界に発信できたことは本国際会議の大きな収穫であった。

最後に、今回の国際会議の趣旨に賛同し、ご支援をいただいた貴財団に深く感謝申し上げます。